

日和聰子『びるま』から『砂文』まで



2017年1月15日(日)～3月14日(火)

【開館時間】9時～17時 【休館日】水曜日 【会場】前橋文学館 2階展示室

【観覧料】300円(常設展・朔太郎展示室もご覧いただけます)

高校生以下・障害者手帳をお持ちの方と介助者1名 無料

1月15日(日・開催初日)と2月25日(土・記念イベント日) 無料

記念講演

演題「日々の文に触れて」 講師 日和聰子氏

【日時】2017年2月25日(土)午後2時より(1時30分開場)

【会場】前橋文学館3階ホール

【定員】100名(先着順)

【申込】電話またはメールで前橋文学館へ(1月15日より受付)

*メール申込に限り、日和氏への質問を受け付けます。

時間に余裕があれば、その中から日和氏にお答えいただけます。

館情報

1月21日(土)から3月18日(土)まで

企画展「はじめて出逢ったあの日へ—教科書の中の萩原朔太郎」を開催します。

(3階オープンギャラリー 観覧料無料)

協力：新潮社

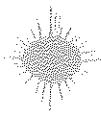
萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

日和聰子 『びるま』から『砂文』まで

萩原朔太郎賞受賞に至るまでの日和聰子の詩と小説、それを生み出す日和聰子ワールドを、さまざまな資料の展示をおしてご紹介します。独自の民話風の文学世界は、詩にも小説にも流れています。それは、時にユーモラスでありながら、生の闇を抉摘する深さを湛えています。萩原朔太郎賞に新たな輝きを加えた詩人の世界をご覧ください。

びるま
日和聰子



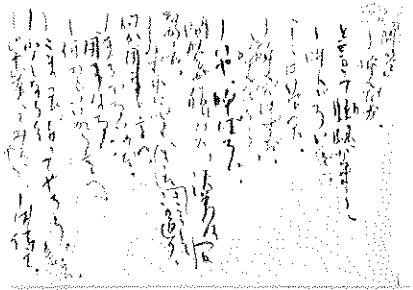
『びるま』 2001年3月

たえず詩のことを思い、考え続けながら、いまは詩からはなれなければならない、という状況や葛藤のなかにも、長く身を置いていました。一人の人間が、故郷と他郷に同時に身を置くことができないように、大きく隔たった場所にある詩と小説のあいだを、右往左往し続けてきました。そのなかで成った詩集が、萩原朔太郎賞をいただくこととなり、強い畏れと、それとともにゆくための力を、同時に授けられたような思いです。ありがとうございました。(日和聰子 受賞の言葉「新潮」2016年11月号)

唐子木

日和聰子

『唐子木』 2001年3月



草稿裏面「蝶法四千年記」

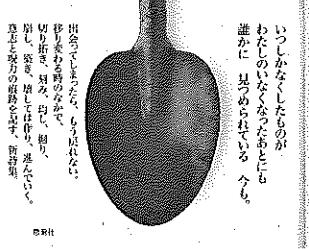


『砂文』装幀に使用されたスコップ
菊地信義氏から著者に贈られたもの



Profile: 詩人・作家。1974年、島根県生まれ。立教大学文学部日本文学科卒。2002年『びるま』で第7回中原中也賞、2012年『蝶法四千年記』で第34回野間文芸新人賞、2016年『砂文』で第24回萩原朔太郎賞受賞。他の詩集に『唐子木』『風土記』『虚偽の一念』、小説に『おのごろじま』『校舎の静脈』など。

砂文



『砂文』 2015年10月

萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10 TEL: 027-235-8011 FAX: 027-235-8512
E-mail: bungakukan@city.maebashi.gunma.jp URL: http://www.maebashibungakukan.jp/

ACCESS

電車 JR前橋駅から徒歩約20分／上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約5分

お車 関越自動車道 前橋ICから車で約15分

※市営パーク城東のご利用に際しては、駐車券に割引処理いたします。

